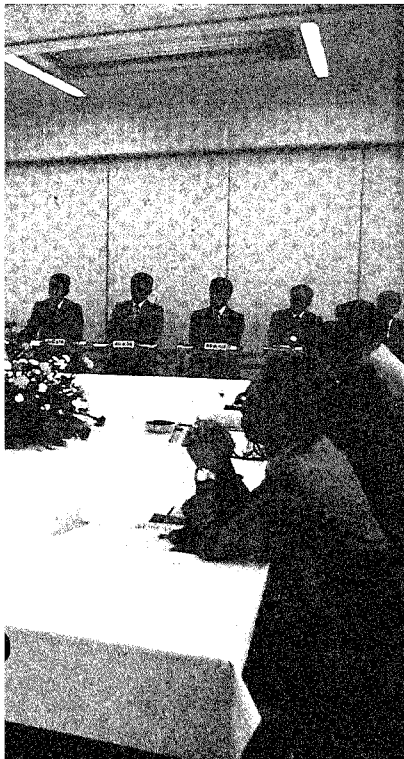


座談会

市民が主役

21世紀への幕が上る

21世紀のつるを語る会



二十一世紀に向けた、「ふるさとつる」のあるべき姿・夢を求めて、都倉市長と本市出身で各界で活躍している四氏を招いて、意見交換会を行いました。

座談会に際し、山口助役から「都留市の将来について忌憚のないご意見を伺いたい」との趣旨説明があり、続いて都倉市長から本市の概要説明が行われ、座談会に入りました。

出席者は、都倉市長のほか、司会の川上長明氏（県地域推進委員・県生活協会理事）奥秋彦氏（寝具卸問屋甲斐代表取締役）峰岸秀茂氏（旅館業）西室陽一氏（株東京ガス専務取締役）国井雅比古氏（NHKアナウンサー）の各氏です。

この座談会は九月一日に行われたものを要約して掲載したものです。



川上長明氏（司会）

故郷を思う

川上氏（司会）
故郷の祭りを通じて感じたことをお聞かせ下さい。

織物は転換期

奥秋氏
私は、十二歳で東京へ出ました。お祭りと言えば八朔祭りですね。当時は世の中が不景気で、二銭銅貨一枚貰って祭りに行った記憶があります。それを考えると今は良い時代になったと思いますね。

私は、織物関係の仕事をしていきますので、田舎のことは良く分かります。この織物は、婚礼用の夜具地、座布団地が主流です。しかし、今は大阪方面の綿布関係の素材を使ったものが全国的には主流です。

先程市長さんから市の概要説明がありました。第三次産業への従業者が増えている現在、山林の有効利用としてのゴルフ場等の誘致は非常に良いことだと思います。これは財源の増加にもつながると思います。

老人の里づくり

峰岸氏
子供の頃は、八朔祭りでサーカスを見るのが楽しみでした。

東京から車で遊びに行くのには、東海道はもう駄目ですね。道が混んじやって。そのてん都留は中央自動車道で一時間ちょっとでこれますから条件は良いと思います。高齢化社会を迎えて、益々老人の遊ぶ施設の需要が増えてくると思います。これは二十一世紀に向けての課題になると思います。東京から近いという立地条件から老人の保養センターのようなものを作ることがよいと思います。

変り目を捕えて

西室氏
私は、年に二十日ぐらいはこちらで暮しています。早馬

町で育ったんですが、実は、早馬町の屋台を見たのは今日が初めてなんです。飾り幕については子供の頃に見た記憶があります。確か御輿を担いでねり歩いたような気がします。

この間大学通りを歩いて見たんですが、ナウイ店が沢山出て来てる感じが受けてました。それは文教都市の中心である都留文科大学のウエイトと学生によるものだと思います。

何かを中心にして町というものには段々大きくなって行く、そうした変化に市も対応して動いて行かなくてはならない。このような気がします。日本の経済構造も変わるし、人間も変わって行く、その変わり目をうまく捕えてゆかないと市が発展していかない。

先程のサン地開発構想ですが、ゴルフ場を造ると雇用人口で百三十人から百五十人ぐらいいの雇用がある。これはちよつとした工場並の雇用です。少なくとも数億円のGNPを生む。こうした形でも産業が今は興りつつある。これも新しい時代の流れだと言う気がします。

それと同時に、この町の持